

科目名	選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通じて、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、障害を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	使える 実践の中で技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	各競技での経験を活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
A	わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
B	できる 専門体力を有し、競技に応じた技術を身に付けている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
C	する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎練習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技に必要なもの

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・ペア学習・グループ学習 ・競技毎の練習
--

科目名		体育	授業時数	週 3 単位	3 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
基	わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
準	できる 基礎練習を正しくおこなう、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
標準	する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか (教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか (授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	体育祭の演技項目である『心技体』の演技構成を考えることや1つの目標に向かって共に力を合わせて活動することを通して、協働力、実行する力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 演技構成をもとに、言われた以上の工夫を加えて知識・技能を使える。	演技構成を考える中で、特に独創性があり、他者との確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	A わかる 演技構成をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	演技構成を考える中で、特に独創性があり、他者との確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる 演技構成をもとに、他者とも協力しながら課題をやり遂げることができる。	演技構成を考える中で、他者との確に協調しながら構想を形にしていけることができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する 演技構成をもとに、難しい課題にも取り組もうとする。	演技構成を考える中で、他者と協調しながら構想を形にしようとするができる。	学習内容に組み込み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	演技構成案の内容などの成果物、演技の試験、練習姿勢	演技構成案の内容などの成果物、グループ活動、練習姿勢	演技構成案の内容などの成果物、グループ活動、練習姿勢

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体育祭『心技体』演技構成・演技 進路学習
2 学期	体育祭『心技体』演技構成・演技 進路学習
3 学期	進路学習

何で学ぶか (教材)

どのように学ぶか (授業方法など)

- ・ グループ討論
- ・ 実技

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えを深めている。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることができる。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重している。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につける努力が見える。	・文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする努力が見える。	・国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする努力が見える。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて学習意欲を持つ。	・文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする意欲を持つ。	・国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする意欲を持つ。
評価方法	・定期考査 ・課題確認テスト ・漢字テスト ・授業の取り組み姿勢	・定期考査 ・課題確認テスト ・ノートの整理 ・授業の取り組み姿勢	・授業に臨む姿勢、意欲 ・ペア学習、グループ学習

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『文学の未来』（評論）『言語と記号』（評論）『檸檬』（小説）『スペインタイルの家』（小説）
2 学期	『クレールという女 言葉を生きる』（随想）『社会の壊れる時』（評論）『他者の声 実在の声』（評論） 共通テスト対策
3 学期	

何で学ぶか (教材)

・精選現代文B（東京書籍） ・精選現代文B 学習課題ノート（東京書籍） ・常用国語便覧（浜島書店） ・各種補助教材（プリント等）

どのように学ぶか (授業方法など)

・講義 ・ペア学習、グループ学習 ・プリント教材
--

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響を理解できる。	作品の成立した背景や他作品などとの関係を踏まえて古典を読み、内容の解釈や作品の価値の考察ができる。	古典作品を通して書き手の思いや当時の文化を理解しようとする姿勢をもつことができる。
	A わかる	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解できる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品を読むためのきまりや語彙を身に付けようすることができる。
	B できる	古典の作品に表れている言葉の響きやリズム、表現の特色などを理解することができる。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
	C する	古典の作品や文章の種類とその特徴を理解することができる。	構成や展開などを的確に捉え、文章の種類を理解することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・古文 随筆(枕草子)、物語(源氏物語・大鏡)、日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・漢文 史伝(三国志・史記)、小説(人面桃花・杜子春伝)、漢詩
2 学期	・古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・私大試験対策
3 学期	

何で学ぶか(教材)

・教科書 明治書院『新 高等学校古典B』
・副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) ・『新明説漢文』(尚文出版) ・『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・ペア学習 ・グループ学習 ・問題演習

科目名	数学演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	事象と数学のかかわりや、社会的有用性についての認識を深めるとともに、課題を設定し、解決までのプロセスを多角的に考察し、協働して論理的に解決しようとする態度を育てる			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 事象を数学的に捉え、適切な数学的処理ができる。	事象を多面的に捉え、それを数学的・論理的に表すことができる。	自ら課題を設定し、既習内容を活用・応用することができる。
基	わかる 与えられた課題の解決方法を自ら導くことができる。	事象を多面的に捉え、協働し数学的論理を考察することができる。	自ら課題を設定し、既習内容を反復演習することで定着を図ることができる。
準	できる 与えられた課題について、指示した方法で解決することができる。	事象を理解するために、協働し考察することができる。	与えられた課題に取り組み、理解をするために自ら質問することができる。
標準	する 基本的な事象について考え方や公式を選択し、回答することができる。	解いた内容を言語化し、発表することができる。	指示した内容を期限内に取り組み提出することができる。
評価方法	授業での演習 定期考査等の試験 記述式問題	グループ学習 発表 定期考査等の試験 記述式の問題	授業での演習 提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
2 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
3 学期	

何で学ぶか (教材)

数研出版 新編数学 I
数研出版 新編数学A
数研出版 3TRIAL数学 I + A

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
グループ学習
スタディサプリ

科目名	英語演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	長文や文法，リスニングの問題演習により思考力，判断力を向上させることで大学入試共通テストや私立大学の入試レベルの学力を身につける。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 入試レベルの問題演習において，単語や慣用句など適切な語彙で正しく解答できる。	入試レベルの問題演習において，正しく解答することができる。	入試レベルの問題を積極的に解き，復習し，読解力や正答率を向上させるよう努めている。
	<i>A</i> わかる 演習問題において，語句の問題が正しく解答できる。	演習問題において，根拠に基づいて適切に解答できる。	演習問題を根拠に基づいて解くだけでなく，積極的に復習をし，弱点を補強しようと努めている。
	<i>B</i> できる 単語や語句の力が向上している。	演習問題において，自分なりの根拠に基づいて解答を導くことができる。	演習問題において，自分で考え，根拠に基づいて解答しようと努めている。
	<i>C</i> する 問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	LESSON1～LESSON7(文型，時制(1)，時制(2)，助動詞，受動態，不定詞・動名詞(1)，不定詞・動名詞(2))
2 学期	LESSON8～LESSON14(分詞・分詞構文 準動詞のまとめ，比較，関係詞(1) 関係詞(2)，仮定法，否定／注意すべき構文)
3 学期	

何で学ぶか(教材)

英語総合問題集UNITE STAGE 2.5 (数研出版) 英検過去問 大学入試過去問
--

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 ペア学習・グループ学習 講義による解説

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	授業時数	週 5 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	自分の意見を適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。
	わかる A	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	指定された時間内に正しい発音で、内容を分かりながら読める。
	できる B	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすることができる。	指定された時間内に正しい発音で読める。また事実と意見などを区別して、理解できる。
	する C	モデル文を真似てゆっくりはっきり読み、丁寧に書くことができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。
評価方法	授業・定期考査・インタビューテスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・音読テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Discourse Marker, L1 Emperor Penguin L2 Caffeine, L3 Blood is Blood L4 Biomimetics
2 学期	L5 Communication without Words L6 Christmas Truce L7 Political Correctness L8 Global Water Crisis
3 学期	

何で学ぶか(教材)

啓林館『LANDMARK Fit』 English Communication Ⅲ 数研出版『必携英単語LEAP』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	原始から現代に至る歴史の展開を理解し、現代社会においての自己の在り方について理解することができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
基	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
準	日本史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解することができる。	歴史的思考力を培い、国際社会において主体的に生きる日本人の自覚と資質を身につけることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	基本的知識身に付け、歴史が複合的な要因で成り立っていることを理解することができる。	日本史の基本的な流れを理解し、現代社会とのつながりなどを多面的に考察し、公正に判断することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学期	

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	公民	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に生きる国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 標準	<i>S</i> 使える 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとすることができる
	<i>A</i> わかる 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに、様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとすることができる
	<i>B</i> できる 選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとすることができる。
	<i>C</i> する 選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日々の課題に対して、主体的に理解しようとすることができる。
評価方法	・ 授業 ・ 定期テスト	・ 授業 ・ 定期テスト ・ 提出物	・ 授業 ・ 提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	国際政治のしくみと動向
2 学期	国際経済のしくみと動向 国際社会の現状と課題
3 学期	

何で学ぶか (教材)

東京書籍「現代社会」 東京書籍「現代社会 要点サブノート」 プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	基礎体力	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	初動負荷マシンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる 弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	自分の身体の状態を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる すべてのマシン12種の機能を理解し、適切な動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的なマシン4種類の機能を理解し、適切な動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のおくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・グループトレーニング ・映像学習 (動画)
--

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	多くの文章にふれる中で、語彙力、読解力、思考力を養い、広く社会・文化についての理解を深め、それを自らの考えとして表現できるようにする。広く社会・文化についての理解を深め、それを自らの考えとして表現できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	相手や場に応じて効果的に話す、聞く、主体的に表現することができる。目的や意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えを発展させている。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる。客観的、主体的に思考、判断することができる。
	A わかる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	相手や場に応じて話す、聞くことができ、自分の考えをまとめることができる。目的や意図に応じた表現による文章が書ける。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め、表現できる力を磨く。客観的、主体的に思考、判断する力を磨く。
	B できる	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけようと努力する。	相手や場に応じて聞き取り話し合い、その内容を理解しようと努力する。自分の考えを文章にすることができる。	言葉や文章で表現しようと努力する。客観的、主体的に思考、判断できる力をつける努力する。
	C する	言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて学習意欲を持つ。	相手や場に応じてその内容を理解しようとする姿勢を持つ。自分の考えを深めようとする学習意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法	授業態度の観察 定期考査 提出スト 定期課題 漢字テ	授業態度の観察 定期考査 提出 定期課題 作文	授業態度・姿勢・準備 グループ活動への取組	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『はじめての失敗』(随想) 『言葉を理解する』(評論) 『マスク』(小説) 小テスト、作文コンクール、漢字テスト
2 学期	『博士の愛した数式』(小説) 『おまえはどこに立っている』(随想) 『小説とは何か』(評論) 小テスト、作文、漢字テスト
3 学期	

何で学ぶか (教材)

教科書「新高等学校現代文B」明治書院 教科書「新高等学校現代文B学習課題ノート」明治書院 「常用国語便覧」浜島書店 「新版高校漢字必携」第一学習社編集部 各種プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習 (発表) グループ学習 (発表)

科目名	国語表現演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTP0に応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	習得した漢字・ことば・ことわざ・慣用句・四字熟語を活用する。	文章表現のなかで、習得した国語常識を適切に表す。	日常的な場面で積極的に習得した語句を使用する。
	A わかる	漢字・ことばの正しい使い方ができ、常識用語を認識する。	文章表現のなかで、適切な語句を正しく選択する。	習得した語句を理解し、自分の日常生活に関わらせる態度を持つ。
	B できる	国語常識を繰り返し学習し、正確に理解する。	場面、状況にあった語句の使い方を考え、正しく理解する。	身につけるべき事柄について意欲的に学習できる。
	C する	覚えておくべき国語常識の演習問題に取り組む。	漢字書き取り練習、語句の意味調べに取り組む。	日本語の力を身につけるため、国語を総合的に学習する意欲を持つ。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現 韻文 文学史 文法の力
2 学期	・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現 韻文 文学史 文法の力

何で学ぶか(教材)

・テスト式 国語常識の総演習 京都書房 ・補助教材プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

・問題演習後の答え合わせ ・補助教材での反復学習

3 学 期	・文章表現 韻文 文学史 文法の力
-------------	-------------------

--

科目名	数学A	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。
評価方法	定期考査 授業での演習 確認小テスト	定期考査 提出物の状況 グループ学習での発問 授業での板書・発表	授業態度 提出物の状況 グループ学習での活動 授業での板書・発表

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 2 次関数とそのグラフ
2 学期	順列と組み合わせ 確率
3 学期	

何で学ぶか (教材)

数研出版『改訂版 新 高校の数学Ⅰ』 数研出版『改訂版 新 高校の数学A』 プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 グループ学習 板書・発表

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思考・表現することができる。	多様な場面における言語活動に取り組むことができる。
	A わかる 相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本文や基本問題を読んだり、解くことができる。	新出単語や表現について理解し、適切に用いることができる。	授業に臨むための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	使役動詞 関係代名詞の継続用法
2 学期	関係副詞 知覚動詞 仮定法
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH Communication Ⅱ』 数研出版 COMET コメット英単語 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名	日本史A	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く。近現代の日本史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する。近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、歴史的思考力を身に付ける。現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し、国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 標準	S 使える 近現代の日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて十分理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を、世界の歴史や国際環境等と関連づけて考察することができると共に、得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けることができる。
	A わかる 近現代の日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を、考察することができると共に、得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けることができる。
	B できる 近現代の日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて概ね理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開を考察することができると共に、資料や情報を活用し、歴史を探究する学び方を身に付けることができる。
	C する 近現代の日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けてある程度理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開を、考察することができると共に、得られた資料や情報を活用することができる。
評価方法	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等	提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	私たちの時代と歴史 近代日本の形成 東アジア世界の変動と日本
2 学期	二つの世界大戦と日本 第二次世界大戦後の国際社会と日本 現代世界と日本
3 学期	

何で学ぶか (教材)

日本史A (東京書籍)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 グループ討議

科目名	地理A	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育て、現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代世界の地理的な諸課題に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組む追及している。
基	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
準	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項を理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取るすることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
標準	現代世界の地理的な諸課題を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	地球上の位置と国家 グローバル化がすすむ世界 人々の生活と地形 人々の生活と気候
2 学期	人々の生活と産業・文化 各国の生活・文化
3 学期	

何で学ぶか(教材)

帝国書院『新地理A』 帝国書院『高等学校 新地理Aノート』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	簡易ソフト	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得し活用できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	わかる A	情報を適切に収集、処理、発信するための基礎的な知識を身につけている。	表計算ソフトウェア（Excel）の習得に積極的に取り組んでいる。
	できる B	情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち取り組んでいる。
	する C	情報に関する重要語句が理解できる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報の活用と情報モラル 表、グラフの作成
2 学期	関数の利用 PowerPoint操作 プレゼンテーション
3 学期	プレゼンテーション

何で学ぶか (教材)

chromebook

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 PC実習

科目名	基礎体力	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	初動負荷マシンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	初動負荷理論を理解し、それに基づいた動作・リズムをマシンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状況を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	基本的なマシンの機能を理解し、動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・グループトレーニング ・映像学習 (動画)
--

科目名	スポーツ概論	授業時数	週 1 単位	3 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	スポーツにおける体力向上, 自分の体をマネジメントする能力、知識を養い生涯を通じてスポーツと関わり続ける人間を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 日常生活でもスポーツで学んだ知識、能力を活かすことができる。	スポーツで学んだことを考察し的確に行動に移すことができる。	スポーツから競技力向上だけでなく人間力向上のため、日常生活の振り返りを行い評価・改善しようとするができる。
	A わかる 取り組んでいるスポーツの競技力向上に繋げることができる。	1つ1つの知識を頭で理解し的確に専門競技に繋げることができる。	改善点を克服する、競技向上のため果敢に学びの姿勢を止めず他者を巻き込んでいく。
	B できる 学んだ知識、技能を実際にスポーツで活かすことができる。	適切な用語・記号を使い、他者に分かるように説明することができる。	分からない点等を自ら人に聞いたり、他の者が困っている時に一緒に考察することができる。
	C する スポーツについて基本的な知識を学んだり、理解したりすることができる。	基本的な知識の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備が出来ている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体力向上の科学的知識について 体力トレーニングについて 自分の体をマネジメント 栄養でパフォーマンスを高める
2 学期	・スポーツキャリアと職業について ・指導の場としての学校における体育・スポーツ活動やスポーツイベントについて 知る
3 学期	

何で学ぶか(教材)

大修館書店「改訂版 基礎から学ぶスポーツ概論」 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 タブレット教材 レポート作成
